

Ⅱ. 新人看護職員研修内容に関すること

1. 研修期間 (12) か月

2. 自施設の研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※3 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※4)		時間 数 / 日 数	研修内容
		講義	演習				
4～5月	1.組織の仕組みと看護部理念	○	○	部署外	熊本第一病院及び自施設会議室	2日	1. ・萬生会沿革・理念・基本方針 ・組織の仕組みと就業規則 ・看護部組織と看護部理念 ・医療安全管理・緊急時の対応 ・感染防止対策 ・防災対策と消防設備 ・接遇・マナーについて
	2.看護部規定と目標管理	○		部署外	自施設会議室	2時間	2. ・看護部規定について ・患者の権利と看護者の責務 ・看護師の倫理綱領 ・各看護単位の特殊性 ・目標管理について
	3.与薬の技術	○	○	部署内		0.5時間×4	3. ・誤薬防止手順に沿った与薬 ・患者誤認防止策 ・定期内服・定期注射処方箋/臨時内服・臨時注射処方箋/麻薬処方箋の見方と取り扱い
	4.安全管理	○	○	部署内		0.5時間×2	4. ・インシデント・アクシデントレポートの記入について ・安全センサーの機種と適応と必要書類について
	5.物品管理	○	○	部署内		0.5時間	5. ・SPDについて
	6.疾患理解	○		部署外	自施設会議室	1.5時間	6. ・認知症について
	7.看護必要度	○	○	部署外	自施設会議室	4時間	7. ・看護必要度について
	8.食事援助技術		○	部署内		0.5時間	8. ・経管栄養の準備と実施
	9.看護技術	○	○	部署外	自施設1病棟	1時間×2	9. ・吸引 ・胸部の聴診と呼吸音の把握 ・点滴静脈注射手技
	10.プリセプティターの会		○	部署外	自施設会議室	2時間	10. ・振り返り ・フリートーク
6～7月	11.看護記録	○	○	部署外	自施設会議室	1.5時間	11. ・看護記録1号紙記入について ・ファイルメーカー入力方法について
	12.人工呼吸器の取り扱い	○	○	部署外	自施設会議室	1時間	12. ・人工呼吸器の取り扱い
	13.ポジショニングについて		○	部署外	自施設外来	1時間	13. ・ポジショニングの具体的方法

8～10月	14.感染防止対策	○		部署外	自施設 会議室	1時間	14. ・スタンダードプリコーション
	15.プリセプティ の会		○	部署外	自施設 会議室	4時間	15. ・振り返り ・心に残った看護の場면을記述する ・フリートーク
	16.看護過程	○	○	部署外	自施設 会議室	8時間	16. ・看護過程
11～3月	17.倫理について	○		部署外	自施設 会議室	1.5時間	17. ・看護倫理について
	18.プリセプティ の会		○	部署外	自施設 会議室	4時間	18. ・振り返り ・情報共有 ・フリートーク
	19.伝達講習会			部署外	自施設 会議室	1時間	19. ・受講した研修についてまとめ発表する

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○印を記入して下さい。両方に○印を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

<看護部門>

研修責任者は看護部長が担当し、研修プログラムの企画・運営を教育委員会が行う。各看護単位に教育担当者(看護師長)、実地指導者(教育委員を兼務している者)を配置している。実地指導者の心身の負担が過剰にならないよう、3回/年、実地指導者の合同会(プリセプター会)を開催している。

<各看護単位>

実地指導者は、平成23年度までのプリセプターの役割(職場適応のためのサポート、臨床実践に関する実地指導)に加え、教育担当者の指導・助言を受けながら評価を行うこととしている。他の看護職員は、実地指導者の情報提供により、新人看護職員に対して頻度の少ない処置の介助の見学や実施の機会を作っている。

4. 医療機関受入研修を知った方法

前年度の3月上旬に、看護部長・施設長宛の研修案内の文書により知った。

※前年度も同様の研修を受けていたため、熊本赤十字病院より計画があることは事前に案内があった。

5. 医療機関受入研修に参加させることを決定した理由

自施設のみでは、すべての研修を企画実施する人材や時間が不足しているため。また、他施設の新人看護職員との交流ができるため。さらには、研修内容や実施方法など、新人看護職員の研修・指導に携わる者の学びになるため、指導者も含めて医療機関受入研修に参加させることを決定した。

6. 医療機関受入研修に参加させるにあたり準備・調整したこと

新人看護職員および教育担当者または実地指導者を参加させるための、スケジュール調整を行った。また、教育担当者や実地指導者へは、新人看護職員研修ガイドラインについて周知し、新人看護職員と一緒に医療機関受入研修に参加する目的を指導した。

7. 医療機関受入研修に参加している研修テーマとその理由

研修テーマ:①感染防止Ⅰ・Ⅱ
②急変時の看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
③薬剤の基礎Ⅰ・Ⅱ
④摂食・嚥下の理解
⑤尿道留置カテーテルの管理
⑥輸血の管理
⑦看護倫理Ⅰ
⑧医療安全Ⅲ
⑨メンタルヘルス
⑩プリセプティの会

理由 : 研修を担当している講師が認定看護師や臨床心理士、血液センター職員など、その分野の
の
専門家であり、質の高い研修プログラムと思われたため。

8. 医療機関受入研修と自施設の研修プログラムやOJTとの連動について(自由にご記入ください)

医療機関受入研修へ参加した新人看護職員と実地指導者は、研修報告書を記載し各看護単位の教育担当者を通して提出、教育委員会と実地指導者の合同会で内容を共有、自施設の研修内容を追加したり、各看護単位で他の看護職員へ、新人看護職員へのOJTに活かせるよう伝達した。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価方法(医療機関受入研修施設からのフィードバック等の連携も含めて、自由にご記入ください)

看護技術・必要な基本姿勢と態度・看護実践における管理的側面、それぞれの項目について、1か月、3か月、6か月、1年の時期に自己評価と実地指導者の評価を行うようにしている。しかし、それぞれの項目に関しての習得の時期と到達目安を設定していなかったために、評価結果を活用しにくい状況である。現在、新人看護職員研修責任者等研修参加者を中心に、到達目標・評価について検討している。

Ⅳ. 事業の評価等に関すること

1. 医療機関受入研修の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

新人看護職員への指導者を育成している過程にあり、現状では人材が不足している当施設においては、質の高い研修プログラムに参加できることは新人看護職員にとって有益であり、他施設の新人看護職員との交流により刺激を受ける機会になったと考えている。また、指導者も1名ずつではあるが参加させて頂き、研修プログラムや実施方法など学ぶことが多く、さらに研修内容を各看護単位の職員に周知することで、OJTに活かしやすいと感じている。